

総合医科学研究センター評価結果一覧（2018年度～2020年度）

◆ 総合医科学研究センター

研究部署の改廃や責任者の交代があったが、センター独自の特色ある先端的な研究を各部署が継続して推進できている。医学部生・大学院生への教育や機器・施設使用教育訓練をはじめとする研究施設の改革にも次々と取り組んでおり、研究推進のための環境整備・支援が展開されている。

◆ 研究部門

-
1. 遺伝子治療研究部
設定した5つの研究目標はいずれも優れた成果を出しており、学部・大学院教育にも十分な貢献が認められる。
 2. 悪性腫瘍治療研究部
学内外の多くの施設との共同研究とともに、研究部独自のプロジェクトに関しても適切に目標を設定し、着実に達成していると考えられる。
 3. 分子遺伝学研究部
ゲノム医学の研究基盤整備が着実に実施され、他施設との共同研究事業も着実である。アレルギー疾患研究の日本の拠点の一つとして機能している。
 4. 医用エンジニアリング研究部
学術変革領域に関する研究分野は独創性が高く、評価される。また着実にその技術力を生かしたシーズの開発への努力がなされている。
 5. 人工知能医学研究部
新規部門であるが、大学の講座（放射線医学講座・整形外科学講座）、研究部門（遺伝子治療研究部）などと積極的に共同研究を進めている。
 6. 神経科学研究部
主として痛みの機構、またその基礎となる神経機構について、豊富な経験により適切な課題を設定し、それらを着実に達成している。
 7. 分子疫学研究部
食物アレルギー予防といった、小児科領域等における生活に密着した重要な課題を設定し、それを着実に達成して世に出していることは高く評価できる。
 8. 臨床疫学研究部
プライマリケアの現場の問題を真摯に解析しようとする活動が評価され着実に成果を上げていると見られる。
 9. 再生医学研究部
多領域にわたり、多くの共同研究者とともにユニークな技術開発がなされ、独創性の高い研究が展開されている。

10. 先端医療情報技術研究部

産官学の幅広い共同研究が展開されており、当部の特徴が生かされている。多くの大学・医療機関からの見学があり医療通信に関して先導的な役割を果たしている。

◆ 支援部門

1. 基盤研究施設

多くの支援活動・共同研究を行い、多くの成果を挙げている。学内ばかりでなく、学外や企業との共同研究も活発であり、支援研究課題も多岐にわたっている。

2. 実験動物研究施設

イメージング機器の導入と保守管理や、共用実験室の整備など研究施設の改革に次々と取り組んでユーザーフレンドリーな施設として評価は高い。

3. アイソトープ実験研究施設

支援サービスに大きな比重があり、引き続きユーザーフレンドリーに整備し、ワールド実験を積極的に受け入れる体制を構築していることは特筆に値する。

4. 細胞加工施設（JIKEI-CPF）

「キムリア」製造施設認定の取得により、今後の当該治療への期待が高まっている。今後も引き続き支援の拡大に取り組んでいただきたい。

◆ 研究所

1. 高次元医用画像工学研究所

極めて先進的魅力的な研究アプローチが、他講座と共同で展開されている。さらなる活動の発展が大いに期待される。

2. 臨床医学研究所

研究所の特徴を活かし優れた研究成果を上げている。研究支援・教育についても、登録申請書の改編や大学院生の積極的な受け入れ等、大きく貢献している。